

顎 顔 面 口 腔 育 成 研 究 会

2021年度例会（症例発表＋会員座談会）

2022年 3月27日（日）WEB開催

見逃し配信あり
～4/28

（申込は2022年2月11日～4月28日配信終了日まで）

CONTENTS

各30分

（全症例に三谷先生解説付き）



RAMPAセラピーにより
埋伏した永久歯を
自然萌出させた1例



川上 健太郎先生 <11期生>
川上歯科クリニック祖師ヶ谷大蔵
（東京都世田谷区）

RAMPAセラピーにより
頭蓋底の前方回転成長が
みられた1例



川村 真之先生 <11期生>
せせらぎ歯科クリニック
（宮城県仙台市）

High angle Ⅲ級症例に対する
RAMPAセラピーにおいて
Mass Trainerを用いた1例



与謝野 明先生 <12期生>
萩窪あかり歯科
（東京都杉並区）

上顎骨劣成長および
下顎後退を伴う小児に
改良型バイオブロック
セラピーを行った1例



太田 和宏先生 <9期生>
太田歯科医院
（大阪府柏原市）

例会参加費振込先

参加フォーム

JACG会員様は、QRコードまたは
以下から申し込みをお願いします。



https://us02web.zoom.us/webinar/register/6316401501551/WN_KQetXX1aTher4Gka417NGw

例会参加費

JACG会員…………… ¥3,000

非会員…………… 入会手続き後にお振込みをお願いします。

<https://www.d-jacg.org/gakkai/nyukai>

お振込先

顎顔面口腔育成研究会 入会金振込 振込先

金融機関名：紀陽銀行

支店名：羽倉崎（ハグラザキ）支店

口座種類：普通預金

口座番号：599665

口座名義：顎顔面口腔育成研究会

ガクガンメンコウクウイクセイケンキュウカイ

お問い合わせ

JACG事務局

Mail : secretari@iosinc.co.jp

TIME TABLE

JACG MEETING
2021

10:00
- 10:30

症例発表 川上 健太郎先生
川上歯科クリニック祖師ヶ谷大蔵（東京都世田谷区）
RAMPA療法により埋伏した永久歯を
自然萌出させた1例

10:30
- 11:00

症例発表 川村 真之先生
せせらぎ歯科クリニック（宮城県仙台市）
RAMPAセラピーにより頭蓋底の前方回転成長が
みられた1例

11:00
- 11:20

座談会 PART1
JACG女性会員の新たな取り組みのご紹介
『すくすくデンタルサポート』

12:00
- 12:30

症例発表 与謝野 明先生
荻窪あかり歯科（東京都杉並区）
High angle Ⅲ級症例に対するRAMPAセラピーに
おいてMass Trainerを用いた1例

12:30
- 13:00

症例発表 太田 和宏先生
太田歯科医院（大阪府柏原市）
上顎骨劣成長および下顎後退を伴う小児に
改良型バイオブロックセラピーを行った1例

13:00
- 13:20

座談会 PART2
三谷寧先生と國本洋志会長を囲んで
今後のJACGの展望

*修了証はアンケート記入後に送付させていただきます。

■ RAMPAセラピーにより 埋伏した永久歯を 自然萌出させた1例



川上 健太郎 <11期生>

川上歯科クリニック祖師ヶ谷大蔵（東京都世田谷区）

抄録

【緒言】近年の日常臨床の中で、小児患者における口腔内の現状からはいわゆる顎骨の歪みが大きいと思われることが少なくないと感じている。それは永久歯が正常に歯列に収まらないことの方が普通であるかのようにさえ思える。中には正常に萌出できない永久歯も認められ、それらは萌出遅延や異所萌出として報告され、そのまま埋伏してしまうケースもある。

【症例概要】初診時年齢：10歳3か月 女児

【主訴】歯並びが気になる

【既往歴】溶連菌感染による咽頭炎(扁桃炎)を定期的に繰り返しており、夜間いびきあり。

【検査所見・分析】顔貌の所見として口角下垂と頬筋、オトガイ筋の緊張を認めた。セファロ分析では頭位に大きな問題はない($\delta = +1.0$)が口蓋扁桃の肥大が著しく

(Brody+4)、舌(舌骨)の下降も認められた(C4 inferior)。また、スタディーモデルより OJ : 5.3mm、OB : 6.8mm、上顎66間幅径 : 39.2mmであった。CT検査では副鼻腔に炎症所見は認められず、上顎右側第二小臼歯が顎骨内にある歯胚の段階で方向異常を認めた。

【診断および治療方針】上顎右側第二小臼歯は萌出障害を起こす可能性が高いと診断し、RAMPAセラピーを選択した。

【治療経過】2017年8月4日 TypeV(現AntEx)装着 1回目RAMPA開始 下顎はBiobloc Stage1で拡大

2018年1月12日 TypeM装着 2回目RAMPA開始

2018年6月4日 TypeT装着 3回目RAMPA開始 下顎Biobloc Stage1装着

2018年11月16日 TypeT装着 4回目RAMPA開始 下顎66リップバンパー装着

2019年4月8日 Biobloc Stage2装着

2021年3月26日 下顎DBS

2021年9月5日 下顎3~3保定

【結論及び考察・まとめ】本症例の埋伏した上顎右側第二小臼歯歯胚の回転量は大きく、歯根がある程度完成していたため、過剰な拡大が必要であった。その結果、拡大したスペースへの上顎洞の下降が生じ、基底骨の菲薄化が起こった。拡大により埋伏した歯を萌出させることが可能であると思われるが、そのメカニズムには不明な点が多い。

RAMPAセラピーを応用した方法は外科的な侵襲を加えることなく埋伏歯を萌出させることが可能であるため、非常に有益な選択肢である。しかし、本症例のように歯胚の動きやその周囲組織の変化など予測できない点も多い。今回のケースを参考に慎重な症例選択を行いたい。

略歴

2006年3月 北海道医療大学 歯学部卒業

2008年5月 厚誠会歯科 勤務

2017年2月 川上歯科クリニック祖師ヶ谷大蔵 開業

現在に至る

■RAMPAセラピーにより 頭蓋底の前方回転成長が みられた1例



川村 真之先生 <11期生>
せせらぎ歯科クリニック（宮城県仙台市）

抄録

【緒言】 Björkは正しい成長では頭蓋底は上方に前方回転すると定義し、三谷は顎顔面口腔育成治療の目標の一つはⅠ級安静頭位を作ることだと述べている。しかし、上気道閉塞疾患では、前方頭位による代償的気道確保のため、舌骨上下筋群が伸展しSoft-tissue stretchingにより頭蓋底が後方回転すると推測される。今回、上気道閉塞疾患を頻発していた小児に対しRAMPAセラピーを行い、良好な結果を得たので報告する。

【症例】 4歳11か月 男児

【主訴】 クループ症候群、慢性副鼻腔炎の既往のため呼吸の改善

【治療経過】 2018年1月21日 MHE装着。2018年10月26日よりRAMPAセラピーを4回行う。

2021年10月9日 swallowing trainer装着。下顎はStage1、HAにて拡大。

【結果】 CT画像では両側上顎洞、前後篩骨洞、蝶形骨洞の不透過像の改善が見られた。

Ⅰ級安静頭位分析による術前後の比較ではモーメントアームが短くなった。Björkの頭蓋底の比較では頭蓋底は前方回転し、下顎頭は前上方に成長した。

【まとめ】 RAMPAセラピーにおける上顎の前上方牽引・副鼻腔の改善による上気道の開放は、気道確保の代償姿勢である前方頭位をⅠ級安静頭位に導く。この事はSoft-tissue stretchingを排除し、よりRAMPAセラピーの効果を発揮させ、上気道閉塞疾患を有する症例における頭蓋底の前方回転成長に大きな影響を与えると考える。

略歴

2001年 日本歯科大学新潟歯学部卒業

2006年 日本歯科大学新潟生命歯学部大学院修了

2016年 せせらぎ歯科クリニック院長

現在に至る

JACG女性会員の新たな取り組みのご紹介
『すくすくデンタルサポート』

Symposium

対談者

メイン
スピーカー



佐賀県 佐賀市
ゆきデンタルクリニック 院長

歯科医師
矢島 由紀



埼玉県 神川町
さとこデンタルクリニック 院長

歯科医師
岩前 里子



北海道 札幌市
医療法人社団 熊谷歯科医院
理事長

歯科医師
熊谷 倫恵



福岡県 福岡市
下村歯科医院

歯科医師
金光 さや子

■ High angle III級症例に対する RAMPAセラピーにおいて Mass Trainerを用いた1例



与謝野 明先生 <12期生>
荻窪あかり歯科（東京都杉並区）

抄録

【症例】 7歳5か月女児

【初診】 2019年6月

【主訴】 下顎が出ているのを治したい

【所見】 顔貌は側面観で下顎の後方回転が強く下顔面高が長い。正面観はオトガイ部が尖頭形態を呈し、緊張も見られる。口腔内は Angle III級、Overjet 0 mm、Overbite 0 mmではあるが、下顎前歯の舌側傾斜が強い。Go angle は134° と大きな値であった。

【診断】 骨格性下顎前突症の High angle case

【治療方針】 RAMPA セラピーにより、上顎を前上方へ拡大移動し、下顎を前方回転させて顔面高を小さくする。

【治療経過】 はじめに LaTEX、2回目に AnTEX を装着。RAMPA2回目終了後に overbite が -3.7 mm と開口が認められたため、Mass Trainer を1か月使用。開口量を小さくした後に gHu-2を装着。現在4回目の RAMPA を準備中。

【考察】 RAMPA セラピー中に開口を呈する症例が少なからずある。特に High angle case は開口を起こしやすい。そのような症例に適切な診断を行った上で Mass Trainer を使用し、開口を改善した上で次の RAMPA 装置を使用していくことは、治療期間の短縮につながると考えられた。

略歴

2003年3月 日本大学歯学部卒業

2003年4月 東京歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科) 入学

2007年3月 同大学院 博士課程終了(歯学博士)

2007年4月～2008年3月 東京歯科大学千葉病院口腔外科勤務

2008年5月～2011年11月 山崎歯科医院(東大和市) 勤務

2012年1月 荻窪あかり歯科 開院

現在に至る

■ 上顎骨劣成長および下顎後退を 伴う小児に改良型バイオブロック セラピーを行った1例



太田 和宏先生 <9期生>
太田歯科医院（大阪府柏原市）

抄録

【緒言】 バイオブロックセラピーの概念に基づき、従来の装置に加え、改良型装置も使用し、上顎骨や下顎骨の前方成長を促し、下顎を前方に誘導することによって、Ⅰ級咬合を獲得した症例を報告する。

【症例】 7歳2か月 女児

【初診】 2014年11月

【主訴】 左下側切歯の萌出不全を伴う下顎前歯部叢生

【所見】 短頭型 右AngleⅡ級、左AngleⅡ級、Overjet6.0mm、
Overbite 4.0mm、UR6_UL6間幅径31.0mm

∠ANB5.0° ∠SNA76.0° ∠SNB71.0° ∠FH-MP25.0° ∠LFH43.0°

【診断】 上顎劣成長および下顎後退を伴う骨格性Ⅱ級 AngleⅡ級1類、
Low angle叢生過蓋咬合

【治療方針】 改良型装置を用いたバイオブロックセラピーにて、下顎を前方に誘導しⅠ級咬合の確立を目指す。

【結果】 治療期間6年、上顎拡大および下顎を前方に誘導した結果、叢生は改善し、Ⅰ級咬合を獲得した。

【考察】 従来型バイオブロックセラピーにて頻繁に生じる上顎臼歯部の遠心傾斜(アンカーロス)と前歯部開咬を回避する為に改良を加えた。従来型のバイオブロック装置と改良型装置を使用し、上顎拡大および下顎の前方誘導を行った。

この症例を通して改良型装置を用いたバイオブロックセラピーの利点と問題点について考察する。

略歴

1990年 九州歯科大学卒業

1990年 齊藤歯科(大阪府) 勤務

1996年 大阪府柏原市にて太田歯科医院開業

現在に至る

三谷寧先生と國本洋志会長を囲んで
-今後のJACGの展望を語る-

対談者



吉祥寺こども診療室院長
ソウル・ソガン大学
Humantropics Research Center 兼任教授

歯学博士 三谷 寧



日本小児歯科学会専門医指導医
医療法人社団マリン小児歯科クリニック
理事長

JACG会長 國本 洋志

司会



JACG副会長
医療法人 Smile Dental Care 理事長

小淵 匡清

* 修了証はアンケート記入後に送付させていただきます。